

義父さんの遺品の洋服に

ありがとう

私は妻の亡くなったお父さんの服をきています。一〇年前になくなったお父さんのつけていたスーツやコート、ワイシャツなどほとんどを遺品としてつけついでたのです。妻の父の服は型のふるいものであり、あまりよるこんで着ていたわけではありませぬ。

でも、ある日遺品のスーツを着て妻の実家を訪れました。そのときスーツがた見たお父さんが声をあげて泣き出したのです。

私は涙を流しながら喜んでいるお父さんを見て胸がつまりました。それ以来お父さんに会う際にはお父さんの服を着るようになっています。

おかげさまでぎくしゃくしていたお母さんとの関係も良くなり心から「お父さん」と呼べるようになった。

そんな私たちを妻もつれしそつにみまもっています。お父さんの服のおかげで家庭も仕事も順調です。ありがとう。

(福岡県博多市/Y・H)

友人のピアノニストにありがとう

私は最近趣味でジャズの勉強をしています。楽器はギターです。学生時代に一度ジャズにチャレンジしたこともあるのですがその難易度と覚えることの多さに挫折したことがあります。



わけあって数年前に酒とたばこをやめたのですが、それを機会にチャレンジしたわけです。

こつこつと練習を重ね理論や読譜や暗記も多く、まるで小学生になった気分でもとても新鮮です。月に一度プロの先生に

レッスンを付けてもらい課題曲をもらって取り組むのですが完成までは長い道のりで半年間同じ曲を練習していることもあります。

会社から帰って家族が寝静まった後にヘッドホンをつけて練習。時間があるときに友人の会社社長のピアノニストの家で理論を教えてもらいながら復習するのが私の楽しみです。でもたまにその練習の地道さと反復練習のストレスから別の曲をひいてみたり自分流のアドリブを入れたくなったりしてつい過信して難易度の高いフレーズを入れる度に譜面上の場所を見失いメチャクチャな演奏になって



しまいます。先生や友人に苦笑され、たしなめられ。自分の未熟さと謙虚に取り組む事の大切さを思い知らされる・・・。

先日、大勢の人の前で演奏する機会がありました。相手のピアノニストと二人で演奏することになり、選曲をする段になり・・・私は色々理想の曲を語り相方に提案してみました。相方はニコニコしながら「今まで練習してきた課題曲がいんしゃないっ絶対ひける三曲でいいよ。」私としては見栄もあるしかっこいいと見せたかったので難易度の高い選曲を希望していたのです。「ステージに上がると緊張で何ひいているか分かんなくなるから半分の力で演奏できる。つまり目をつぶっ

ても弾ける曲を選ばないためかもよ。」って笑っています。当日が来てステージにあがって演奏が始まりました。テーマが終わり、僕のソロが・・・記憶があつたのはそれまでで上がったわたしの意識が平静に戻ったのは演奏が終わって片付けをする時でした。

私はピアノニストの相方に「どうでした？弾けてましたか？」恐る恐る聞いてみました。「うん緊張してるから走ってたけど音は正確にひいていたよ。うまくひけてたね。」とほめてもらい、ステージから降りるとみていた女性の方から「感動しました。音色がきれいでした。又きかせてください。」といわれ別の方からは「大好きな曲でした。とても乗れました。かっ！良かったです。」とほめられて・・・なんだかとてもうれしい気持ちで辛かったけど練習してきてよかったなって思えました。

思えば仕事もジャズも同じで謙虚に地道に修学しないとだめなんだなと感じています。友人のピアノニストに感謝しています。下手くそのわたしにいつもつきまわってくれてありがとう。

おかげで最近は何事にも前向きに謙虚に取り組めるようになりました。これからもよろしくお願いします。

(ありがとう・不動産/豊田泰幸)

席を譲ってくださった方に

ありがとう

一歳の子供の母です。育児がけっこ大変で主人とは喧嘩が絶えません。



つい先日主人の休日に出かける際にささいな事が原因で喧嘩をして不機嫌なまま電車に乗り込みました。電車は混んでました。

子供をだっこしてつり革につかまりました。そのとき前に座っていたサラリー

マン風の中年の男性が「どうぞ」と言っ

て席を譲ってくださりました。すると横に座っていた新入社員らしき方も一緒に立ち上がり譲ってくださいました。

「一人立たれたので、一つで大丈夫です」といいましたが、ニコニコしながら「ご主人も座ってください。」

我々は大丈夫ですから。」と言われ二人で恐縮しながら座らせていただきました。私が子供をだっこして座っていると主人がモジモジして「ねえ、僕がだっこするよ。君はゆっくり座ったら？」と言ってくれました。

主人は子供以外の景色をみせて「ブーブだあ。大きな橋だね・・・。」とても朗らかに会話をしています。

私の怒りはいつの間にか消えてとても幸せな気分になりました。席を譲ってくださった方にありがとう。

(八王子市/K)

債務整理をしてくださった

弁護士さんにありがとう

私は自営業をしています。家業がこの不況でうまくいかず、借金ばかりがかさみ・・・。

返済ができませんに悩んでいました。悩めば悩むほど仕事は決まらずに月末には資金繰りで頭を悩ませる毎日でした。

そんな中ある日電車の中吊り広告で「一人で悩まず相談してください」と書いてある債務整理の広告をみました。

思い切って電話をして先生にお会いするととても信頼できそうな方でした。弁護士先生の助言で債務を整理して再起する決心ができました。

決心してからというものの徐々にはありますが仕事もきまってくる。背中を押してくださいました先生ありがとうございます。

(中野区/E・Y)

気づきをあたえてくれた
力強い言葉にありがとう



お客様の事務所で見つけた陶板画に書いてあった素晴らしい言葉に感動したのでご紹介させていただきます。
京都の東寺の管長が書かれた書かたです。あなたはいくつあてはまりますか？
ちなみに私はすべてが自分にあてはまるので自戒の念がわいてきます。
(ありがとう・不動産/豊田)

父にありがとう

東京都の道路計画で収容になつて立ち退きになるために先日「ありがとう不動産」に東京都と地主との交渉をお願いして一月に契約が完了しました。ありがとうございました。
この家は私の父が結婚するときに昭和



一〇年頃に建てたようです。そして昭和二年に兄が生まれ、それからしばらくして太平洋戦争がはじまりました。戦争では父はアリコーション列島のキス力島という所に五千人の守備隊の一人として行っておりまして。

当時キス力島お近くのアツツ島で日本守備隊が全滅し、終戦直前にはサイパン硫黄島で日本軍が玉砕しました。このキス力島も米軍の総攻撃が時間の問題となっていました。日本海軍は艦隊を組織して撤退作戦を行いました。この作戦はいまから40年ほど前に三船俊郎主演で「太平洋奇跡の作戦キス力」として東宝で映画化され公開されました。そして作戦が成功し霧にまぎれて日本守備隊五千人が撤退し霧にまぎれて日本守備隊五千人が行い三万五千の兵を無人のキス力島に上陸させましたが、キス力島には犬三匹以外日本兵は一兵もいなかったということです。

そして父は昭和一八年七月三〇日に無事にもどつてきました。そしてその丁度一年後に私がうまれたのでした。それから一年後日本は終戦をむかえましたが、幸いにも私の家は戦火をまぬがれたのでした。

昭和二十三年に妹がうまれました。もしキス力島で父が玉砕していたら私と妹はこの世に存在しなかつたわけです。父と母も今はもう無くなりましたが、そう思うと私と妹がこの世に生きているのが不思議です。

お父さんお母さん、私と妹を生んでくれて本当にありがとうございました。おかげさまでお父さんお母さんが残ってくださった家を売却してゆたかな老後を迎えることができます。

妹は、孫が生まれておばあちゃんになりましたが、今回「宝くじ」にでもあたつたみたいだ、と大喜びしています。ありがとうございました。
(目黒区中央町/半田英暁)

父の背中にありがとう

私は大手家電販売会社に努めていました。在任中は海外の支店をまわつたり新

規事業を立ち上げたりと何かと苦労の多い仕事でした。
海外赴任時には妻や子供たちにとつらい思いをさせたりしましたが、私についてきてくれた事に感謝しています。数年前に最前線からは退き、今は会社の顧問をやりながら後輩の指導や育成、相談に乗つたりと第二の人生をおくつております。

私の家は山梨のブドウ農園でした。父は若くして両親を亡くして苦労してブドウ畑を手に入れて独立しました。子供の頃から父が早朝から夜遅くまで働いている姿を目にして育ちました。

昭和三十四年、伊勢湾台風が甲府盆地を襲い、ぶどう園一帯は壊滅状態になりました。当時中学生だった私が父のあとについて小高い丘に登り、台風でなぎたおされたブドウ畑を見下ろした時です。そのなかに座布団でも敷いたように、青々とした畑がのこっているではありませんか。その無傷のブドウ畑を指さし、父は「あれは、みんなオレがかけた棚だ」と言いました。
私は父をたたく頑固オヤジだと思つていましたが、そのときから尊敬するようになりました。

オヤジを思い出すといつもそのときのブドウ畑をみつめていた「おやじの背中」が浮かんでくるのです。私が仕事をやり通せたのは父の背中のおかげだと思つています。
父は七十一歳で他界いたしました。葬式は春の彼岸の日だったので、二月にしては珍しい大雪で、ブドウ畑のピニールハウスはのきなみ雪に押しつぶされてしまいました。

しかし葬式に来てくれた何人かの人たちが、「うちのハウスはあなたのお父さんが建ててくれたので安心です」と言ってくれたのです。父はいつも私に言っていました。
「えらくならなくていい。だがいい仕事をしろ」と。その日の大雪は「仕事はこつこつにやれ」という父の最後のアドバイスだったように思えます。おとうさんありがとう



(東京都/S.S)

【携帯 DeSh ョット】の元本根が...句も思い
前に咲花弁世桜と
所開たの残をふ
寛散の
「散る桜」
は...散る桜
に...散る桜



携帯電話の方はQRコードから
パソコンの方は下記のURLから
http://1039.seesaa.net/
メールでのご投稿は...
info@holonics.gr.jp



【編集・企画】株式会社ホロニクス総研・編集部

【原稿をお待ちしています。】

本誌は北海道から沖繩までの友人知人から寄せた「ありがとう」の句、短文、詩、俳句、短歌、写真、絵画などを掲載します。作品は編集部までお送りください。投稿は、ささやかではございますが、オリジナル「ありがとうメカネ拭き」をプレゼントさせていただきます。皆様からのご投稿をお待ちしております。
また、「自分のお名前や事業所名を刷り込んで、身近な方やお客様へ配布される」が、ご意見やご提案がございましたら是非お聞かせください。

